昭和４０年４月５日第三種郵便物認可
（旧「公衆衛生」）

2026年5月1日発行
第647号（通算）
発行：奇数月1日
会員購読料：1月10円(年間60円)
一般購読は別途送料

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

環境と健康

発行者
一般財団法人 ～みんなの生命をまもりつづけたい～
広島県環境保健協会
兼森　裕
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号　730−8631
電話　082−293−1511番
振替口座01380−2−27511
URL　http://www.kanhokyo.or.jp/

専門研修と体験交流研修を合同で開催

府中市で防災をテーマに開催

2月26日、公衛協活動に資するテーマを専門的に学ぶ「専門研修」と、公衛協相互の情報交換の場である「体験交流会」開催のきっかけづくりを目的とした「体験交流研修」を府中市で同時開催し、12公衛協から40人が参加しました。

今回の研修会では、午前中に有事の際に役立つ知識を習得する「専門研修」を、午後からは避難所設営の経験があり、自主防災会と連携した防災活動を実施している府中市第二木野山公衆衛生推進委員会の活動紹介と意見交換を行いました。

専門研修

「専門研修」では、寒い時期に災害にあった場合、どうやって「防寒・保温」をすればよいのか、どんな道具が役に立つのかなどについて地域支援課職員が講義を行いました。その後、アルミブランケットやカイロなど、保温をするための道具が実際にどのぐらい暖かいのかを確認しました。アルミブランケットが意外と暖かいこと、防寒具として市販されているさまざまなグッズも試すことができ、参加者は大変満足していました。また、これまで当協会が実施してきた専門研修のメニュー（簡易トイレ、消毒など）の講義内容を紹介し、各地区で学習会を開催する際のヒントを提供しました。

体験交流研修

午後からは「体験交流研修」として、府中市第二木野山公衆衛生推進委員会の下会長に、第二木野山地区での防災活動を紹介いただきました。第二木野山地区は、平成22年の豪雨災害で避難所を設置した経験があり、その時の苦労話や現在の防災活動をお話しいただきました。第二木野山地区では毎年、地区で所有する防災グッズをリスト化し、全戸配布して共有しています。また、消毒のさまざまなグッズを保有するとともに、消毒の仕方の研修会を毎年開催し、消毒液を日常的に使えるよう工夫をされていました。特に推進委員が2年で交代することを踏まえ、学習会で「繰り返し」による「知識の共有」を図られていました。

次に、保有している防災グッズを格納している防災倉庫（廃校になった小学校（現協和公民館）の体育館の倉庫）を見学しました。広いスペースと頑丈な倉庫に、参加者からは「うらやましい」という声が多く聞かれました。

最後に、第二木野山地区の取り組みに対する質問や参加地域の防災の取り組み状況、実践活動をする際の課題などについて、参加者同士の意見交換を行いました。「熱心なリーダーがいると、みんなも自ずとついてくる」「学習メニューが参考になった」「どの地域も人材不足、高齢化が大きな問題となっている」「短い時間でも研修してもらえるのであれば、うちの地域でも研修会の開催を検討したい」など、たくさんの意見交換ができました。

◇　◇

地域支援課では、令和8年度も体験交流研修を企画・実施します。また、専門研修は、研修会を開催したい公衛協のニーズ（研修時間、日時、場所、テーマなど）に応じて開催する「オーダーメイド研修」に生まれ変わります。他の公衛協の好事例を学び、我が公衛協の活性化のための研修会を開催してはいかがですか。

（地域活動支援センター）

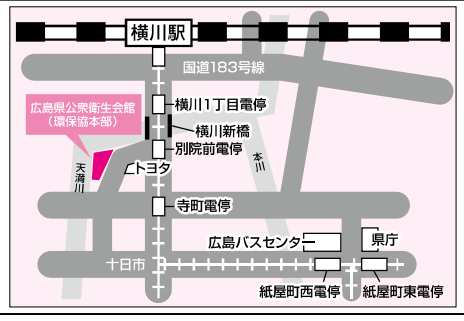
保温・加温グッズの紹介（上）、ランダムにさまざまなアルミブランケットを配り、温かさや音などの使用感を体験（下）

下会長による防災事例の紹介（上）、防災倉庫の見学（中）、グループごとに参加者同士で意見交換（下）

琴線歌（きんせんか）

暮らしとカビ

気づくと、お風呂場の隅にうっすらと黒い影…。そんな経験はありませんか。暖かくなり、梅雨が近づくこの時期は、カビが一気に元気になる季節です。掃除の回数も増えて、少し気が重くなる方も多いのではないでしょうか▼カビというと、どうしても厄介者のイメージが先に立ちますが、実は地球にとってはとても大切な存在です。土の中で、動植物の遺体をゆっくり分解し、再び土へと戻す役割を担っています。自然界の中では、なくてはならない働きをしているのです▼その力は、私たちの暮らしにも深く関わっています。日本酒や味噌、しょうゆ、チーズ、鰹節などの食品づくりに使われているほか、抗生物質や有機酸といった医薬品や工業の分野でも活用されています。知らないうちに、私たちは日々カビの恩恵を受けて暮らしているのです。とはいえ、家の中ではできれば遠慮してほしい存在でもありますよね。ここには生えてほしくないけれど、役立つところではしっかり働いてほしい…そんな気持ちになるのも自然なことです▼カビとうまく付き合うコツは、その性質を知ることです。空気中のカビの胞子が付着して育つには、酸素、水分、温度、栄養分の4つの条件がそろう必要があります。つまり、どれか一つを減らすだけでも、発生を抑えることができます。乾燥させる、冷やす（冷凍する）、真空パックにするなど。少し意識するだけで、暮らしの中のカビ対策は変わってきます。まずは身近なところから、気軽に試してみませんか。

（NPO法人カビ相談センター　理事長　久米田　裕子）

一般財団法人 ～みんなの生命をまもりつづけたい～
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町９番１号（広島県公衆衛生会館）
TEL:082(293)1511 ［大代表］ FAX:082(293)1520
かんほきょう 検索
基本理念 みんなの生命（いのち）をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。